

野田市地震ハザードマップ^{保存版}

■ 地震ハザードマップとは

日本は世界でも有数の地震国であり、千葉県では県南端の野島崎付近を震源とする元禄関東地震(1703年)、相模湾沖を震源とする関東大震災(1923年)等により甚大な被害を受けてきました。近年では、平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の新潟県中越地震、平成19年の新潟県中越地震等が発生しています。平成23年3月には東日本大震災が起こり、さらに東海沖地震などの発生も懸念されており、千葉県周辺で大地震が発生する可能性が高まっています。

過去に発生した内陸型地震における人的被害では、建物や家具等による圧死者が死亡者全体の多数をしめており、住宅の耐震化が急務となっています。地震による被害を最小限にとどめるためには、住宅等の耐震改修を進めるなど日頃からの地震に対する備えが重要となります。

「野田市地震ハザードマップ」として、本市に最も大きな影響を与える地震を想定し、

- 地盤の液状化の可能性を示した「液状化危険度マップ」
- 想定される最大震度を示した「揺れやすさマップ」
- 最大震度での建物全壊の危険度を示した「地域危険度マップ」

を作成しました。

■ このマップの利用方法

市民の皆さん、今後、想定される大地震に対応していただけよう、自宅及びその周辺の地震対策に「野田市地震ハザードマップ」をご活用いただければと考えています。

この地震ハザードマップをもとに、以下の内容を確認してみましょう。

- 自宅、よく行く施設や場所、通るところの危険度
- 避難場所や避難するルート
- 家具の転倒防止等の屋内・屋外の地震対策
- 自宅の耐震性、耐震診断や耐震改修の実施状況

令和5年11月
野田市市民生活部防災安全課
電話:04-7136-1779(直通)

■ 野田市のホームページでもご確認いただけます。
<https://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/anzen/bousai/1000323.html>

■ 本市で想定される地震

「地域危険度マップ」と「揺れやすさマップ」は、本市への影響が大きいと考えられる下表に示す4つの地震を想定しました。

地震のタイプ	活断層で発生する地震	プレート境界で発生する地震	全国どこでも起こりうる直下の地震				
想定される地震	野田伏在断層の活動による地震 (マグニチュード7.0)	東京湾北部地震 (マグニチュード7.3)	茨城県南部地震 (マグニチュード7.3)	野田市中央直下の地震 (マグニチュード6.9)			
地震の概要	本市の南西には、厚い沖積層で覆われた活断層が確認されています。しかし、地表で観察することができないため、最後の地震が発生した時代はわかりません。このため、今後もいつ発生するか予測することが困難です。	近い将来、関東地方南部のいずれかで起こる可能性の高いブレート境界の地震のうち、東京湾北部に震源をおいたマグニチュード7級の地震です。	近い将来、関東地方南部のいずれかで起こる可能性の高いブレート境界の地震のうち、茨城県南部に震源をおいたマグニチュード7級の地震です。	活断層のように地震発生の可能性の目印がない所を震源とする地震が発生することがあります。このような地震による揺れ方を推定するために、本市の中央直下を震源とする地震を想定しました。			
本市で予想される震度							
震度階級	震度5強	震度6弱	震度6強				
計測震度	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0	6.1	6.2	6.3	6.4

■ 地震への備え

手軽で有効な地震対策は、家具の転倒・落下を防ぐ対策と、家の周辺のブロック塀点検・補強などの安全対策です。普段から家の内外を点検して、地震対策を進めておきましょう。

■ 室内の安全対策

■ 屋外の安全対策

■ 非常持出品の準備

非常持出品は、災害発生時に持ち出しえべきものです。

いざというときのために、非常持出品をそろえ、いつでも持ち出せるようにしましょう。非常持出品は、両手の自由によるリュックサックに用意しておくと便利です。

非食	貴重品	非常用具
食料(缶詰、カンパニピッケット、ヨコレーなど火を避けて保管されるもの)、飲料水(3㍑以上など)	現金、印鑑、通帳、カード、免許証、保険証など	ラジオ、電池、ロウソク、火打石、バッテリーなど
衣類等	衣類等	衣類等
救援等	救援等	救援等
その他	その他	その他

…常備薬やおむつ、粉ミルクなど、ご家庭にあった非常持出品を確認しましょう…

■ 家具転倒防止のチェックポイント

1. 寝室や避難経路となる場所に大きな家具・家電を置かないようにします。
2. 重い物は下へ収納し、軽い物を上部に置くようにします。
3. 大型の家具・家電は、転倒防止金具で固定します。
4. 棚は床に設置して棚ストッパーを取り付けます。
5. 整理・整頓し、ガラスには飛散防止フィルムを貼ります。

65歳以上の高齢の方、障がい者のいる世帯の方は家具転倒防止器具を無料で貸しています。(金具2個を1組として、1世帯1組まで)
【問合せ先】高齢者支援課・障がい者支援課 電話:04-7125-1111(代表)

■ 建物の耐震化

地震に弱い建物は、自分や家族の生命・財産を守るうえで非常に大きなリスクであるばかりでなく、地震により建物が倒壊し、道路を塞ぎ、救助・消火活動の大きな障害になります。大地震はいつ起るか予測することは困難です。地震に強い安全なまちづくりのために、耐震化に取り組みましょう。

■ 恐ろしい家屋の倒壊

地震による死亡の原因が多いのは、家の倒壊や家具の転倒による窒息・圧死であり、阪神・淡路大震災での死者の約80%を占めています。

木造建物被災例 (平成19年7月新潟県中越沖地震)
木造建物被災例
阪神・淡路大震災の死亡原因

■ 木造建物耐震化チェックポイント

ご自宅の耐震性について確認してみましょう。

- ① 建てたのは昭和56年(1981年)5月以前である。
- ② 過去に浸水、火災などに見舞われたことがある。
- ③ 壁や基礎にひび割れがある、傾いているのがわかるなど老朽化している。
- ④ 建物の平面の形状や、偏って大きな窓があるなど耐震性に関わる問題がある。

※ひとつでも当てはまれば、耐震診断について建築士などに相談してみましょう。

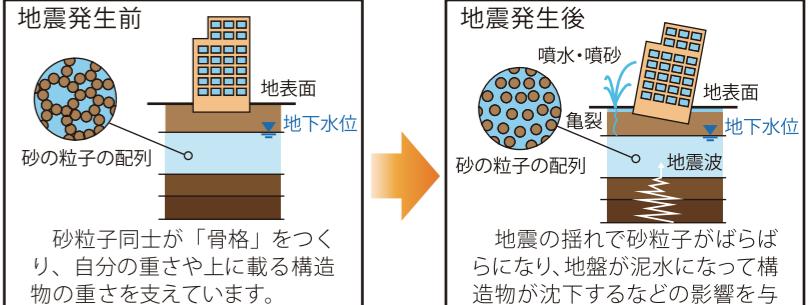
あなたの生命・財産を守るために。
住宅・建築物の一部、または全部の耐震化が急務です。

下図は震度と全壊率の関係を建築年代別・構造別に示しています。新しい建物の全壊率に比べて、建築年代が古い建物ほど、全壊率は高くなっています。特に古い建物の全壊率は、震度6強以上で急激に高くなっています。

液状化危険度マップ

■ 液状化とは

地震により砂地盤を構成する砂粒子がばらばらになり、周辺が地下水で満たされた地盤が泥水となり、地盤の強度が弱まったり、地盤の沈下が発生する現象です。

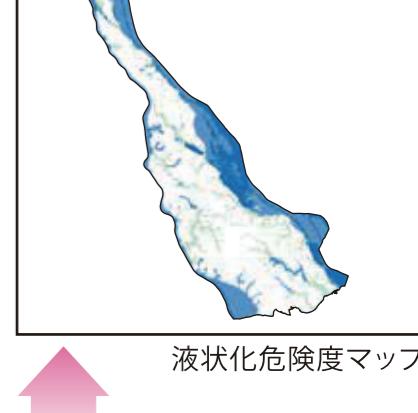
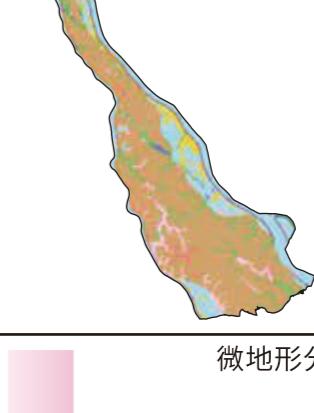


■ 液状化危険度マップができるまで

液状化危険度マップは、液状化地域ゾーニングマニュアル(国土防災局、平成11年1月)を参考に次の手順で作成しています。

① 本市の地形を地形分類にもとづき分類します。

② それぞれの地形に応じた液状化のしやすさを推定します。



地形分類に応じた液状化の可能性の判定	
地形分類	液状化の可能性
旧河道	非常に大きい
堤防(低地)	大きい
埋立地・干拓地	大きい
盛土地	小さい
自然堤防	小さい
デルタ・後背湿地	なし
谷底平野	なし
ローム台地	なし
堤防	なし
人工改変地	なし

* 盛土地は状況により、危険度の区分が変わることがあります。

■ 凡例

- 市役所・支所・出張所
- 国道
- 県道
- 鉄道
- 市町界

■ 液状化危険度凡例

危険度	極大	大	小	無
液状化の可能性	非常に大きい	大きい	小さい	なし

地域危険度マップ

■ 地域危険度マップとは

大学ごとに分布する建物の建築年代や構造を集計し、その割合と50mメッシュ単位の揺れやすさをもとに全壊すると予想される建物の割合が大きくなります。

「地域危険度マップ」は、地域防災マップ作成技術資料(内閣府、平成17年3月)を参考にして、次の手順で作成しています。

揺れやすさマップ
<地域の揺れやすさ>
50mメッシュごとの揺れやすさ

地域ごとに建築年代や構造を考慮した建物分布

■ 地震による住宅など建物の損傷状況

準半壊に至らない(一部壊壊)	準壊	半壊
住家が半壊又は半壊に準する程度の損傷を受けた状態で、補修を必要とする程度	居住のための基本的な機能の一部を失った状態で、経済的な損傷の割合が10%以上20%未満	居住のための基本的な機能を失った状態、外壁や柱の傾斜が1/20以上または経済的な損傷の割合が20%以上30%未満
中規模半壊	大規模半壊	全壊
相当規模の補修を行わなければ、住居に居住することができない状態で、経済的な損傷の割合が30%以上40%未満	大規模な補修を行わなければ、住居に居住することができない状態で、経済的な損傷の割合が50%以上60%未満	居住のための基本的な機能を失った状態、外壁や柱の傾斜が1/20以上または経済的な損傷の割合が50%以上60%未満

出典: 内閣府 災害の係る住家の被害認定基準運用指針

■ 地域危険度マップ

準半壊に至らない(一部壊壊)、準壊、半壊

中規模半壊、大規模半壊、全壊

地図上に示す建物分布

■ 凡例

市役所・支所・出張所
国道
県道
鉄道
市町界

■ 地域危険度凡例

危険度	危険度1	危険度2	危険度3	危険度4	危険度5	危険度6	危険度7
地域内の建物の中で全壊する建物の割合	3%未満	3%以上5%未満	5%以上7%未満	7%以上10%未満	10%以上20%未満	20%以上30%未満	30%以上

揺れやすさマップ

